

<p>1 学校教育目標</p> <p>基本的人権の尊重に基づき、生徒一人一人に対して深い愛情と理解をもって、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた「最適な指導・支援や合理的配慮」を行い、徳（豊かな人間）・体（健康と体力）・知（確かな学力）の調和の取れた生きる力を備えた総合的人間力の育成に努める。 また、郷土に思いを馳せ、生涯にわたって郷土に誇りを持てる人材に育てる。</p>

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>1 確かな学力を育成し、自己実現を図る態度を育む</p> <p>(1) 主体的・対話的で深い学びの中で思考力、判断力、表現力を育むとともに、生涯にわたって学び続ける態度を養う。</p> <p>(2) 生徒一人一人に応じた指導・支援を実践し、学力の基礎・基本を定着させる。 ※1人1台端末等を効果的に活用した個別最適な学びと協働的な学びの実践と言語活動の充実</p> <p>(3) 望ましい勤労観・職業観の育成と生徒一人一人に応じた進路指導を行う。</p> <p>2 道徳性と豊かな情操を育む</p> <p>(1) 心に響く多様な指導を通して命を大切にする心や他者を思いやる心を育む。</p> <p>(2) 規範意識を身に付け、善悪を判断し、自ら律する力を育む。</p> <p>(3) 我が国と郷土の歴史や文化・伝統を尊重する態度とグローバルな視点を育む。</p> <p>3 心身の健康を自己管理する態度を養う</p> <p>(1) 基本的な生活習慣と正しい食習慣を身に付けさせる。 ※時間の厳守、挨拶の励行、掃除の徹底、端正な整容等の徹底</p> <p>(2) 運動に親しむ態度を育み、体力を向上させるとともに、豊かなスポーツライフを実現・継続するための資質・能力を育む。</p> <p>(3) 生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、安全で安心な社会づくりに貢献できる資質・能力を育む。</p>
--

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の経営方針	重点目標の達成 安全・安心な学校づくり	<p>・職員一人一人が組織の一員としての意識を高め、重点目標等を踏まえた日々の実践を意識できるように、具体的な行動指標を職員会議等で示す。</p>	<p>・重点目標等の具現化に向けた取り組みが行われているか振り返るため、教職員の自己評価アンケートを12月末に実施する。</p>	B	<p>・職員に自己評価アンケートを行い、教育目標等の具現化の達成状況について総合評価した結果、約80%（概ねできている）だった。しかし、課題として「見識・人格の向上に努める教師像」に関する数値が低く、教職員の人権意識の向上に資する研修や人間関係づくりが必要である。</p>
			<p>・生徒、保護者、職員にとって安全・安心な学校となるため、また、学習や生活・進路指導等で「チーム湧定」として取り組んでいくため、具体的な行動指標</p>	<p>・安全・安心な学校となっているか、また、学習や生活・進路指導等で「チーム湧定」として取り組むことができているかを客観的に振り返るため、</p>		

			を職員会議等で示す。	生徒、保護者、職員の学校評価アンケートを12月末に実施する。		が、生徒では「学校が安心・安全であり、毎日が笑顔で過ごせるような居場所となっている。」の項目において約14%、保護者では「規範意識の教育」及び「家庭との連携」に関する項目において約10%、教職員では「規範意識の教育」及び「チーム湧心館として組織的な取組」に関する項目において約28~30%と高い数値を示していたので、今後、改善を図りたい。
信頼される開かれた学校づくり	振興会活動の充実 保護者との連携	・保護者関係の行事の出席率向上 (振興会役員会等での出席率50%)	・各種案内及び会報紙を保護者の手元に確実に届ける。 ・会報紙に行事内容を詳細に記載する。 ・生徒の学校生活を知る機会を充実させ、連携を強化する。	A	・保護者会報紙と共に通知表や学級通信を同封し、郵送した。 ・すぐるを活用し、長期休業明けの学校再開日の時間を流し周知を図った。 ・保護者会(振興会)役員会を年6回を実施し、年間出席率が55%であった。	
業務改善 働き方 改革	時間外勤務時間の改善	・時間外在校等時間が月45時間以内となる教職員の割合を年間で「90.0%」以上にする。	・毎月、衛生委員会を開催し、時間外在校等時間が増えている原因を分析し、業務の調整やチームによる対応など業務改善に向けて組織的に取り組む。	A	・時間外在校等時間が月45時間以内となる教職員の割合が4月~12月の期間で「約96.3%」となるなど、業務改善ができています。	
	年休取得の推進	・教職員1人当たり年次有給休暇平均取得日数を「15日/年」以上にする。	・会議や研修の日程や時間を調整するなど年休が取得しやすい環境づくりを行う。	A	・教職員1人当たり年次有給休暇平均取得日数が4月~12月の期間で「約11.7日」となるなど、年休を取得しやすい環境づくりができています。	

学力向上	基礎学力の向上	授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの視点から、学びに向かう力、思考力・判断力・表現力を育む授業の実施 ・生徒の興味・関心を喚起しながら、基礎的・基本的な学力の定着、知識 ・技能をのばす授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットや電子黒板などのICT機器の活用および職員研修の実施によって思考力、判断力、表現力を育むための効果的な活用方法を研究し、主体的・対話的で深い学びのある授業の構築を図る。 ・生徒の興味・関心をひく授業を行うことで、基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒が個々の課題を解決し、達成感・成就感を得て、学ぶ意義を見出すことのできる授業を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も公開授業および研究授業（地歴・公民、保体、芸術）を実施し、公開授業で参観された方の感想として「生徒たちの反応が良く、ICTを活用した授業だった」など、概ね高評価の意見が多かった。 ・タブレットや電子黒板などのICT機器の活用について、定時的な職員研修の実施およびICT支援員への相談・指導を仰ぐことによって、今後も効果的な活用方法を模索し、生徒の興味・関心をひくための授業改善を図っていく。
		学力保障	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や学校行事等に進んで参加による確かな学力の育成と「徳・体・知」の調和のとれた「総合人間力」の育成 ・学校評価アンケートで生徒質問項目「学校（定時制）の授業は、あなたにとって分かりやすく工夫されている。」等、前年度を上回る評価を得る 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に学習に取り組む意欲・態度（授業時の挨拶や取り組む姿勢）を高め、当たり前のようにできるように、粘り強く指導することで、自己管理ができる生徒、簡単に遅刻・欠席しない生徒の育成を図る。 ・各生徒の理解状況を把握し、中学校卒業程度の内容を含めながら1時間で完結する授業の展開を行い、わかりやすい授業、基礎学力の向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート集計「学校（定時制）の授業は分かりやすく工夫されている」（生徒全学年）について、約9割の生徒が「そう思う」「やや思う」と回答した。 ・毎日の授業に遅刻・欠席する生徒があり、授業に取り組む姿勢・態度を改善するために粘り強く指導を続けるとともに、分かりやすい授業・基礎学力の向上を目指した指導を今後もすすめていく。
		参加型授業の展開 教育課程の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で意欲的に授業に取り組む教育活動の促進 ・生徒の進路保障をはかるための教育課程の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心を喚起する授業のための教材研究と教材作成を行う。生徒の主体的な学習活動を促すための指導 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・湧心館定時制へ入学前の中学生時代、不登校だった生徒が多いため、基礎・基本的な事柄から学習に取り組んでもらうように授業担

			と見直し	<p>方法の工夫・改善を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に基づいた教育課程を実施することで、教育活動の質の向上をはかり、学習意欲を高め、生徒の進路保障につながるができるよう、教育課程の継続的な検討を行う。 		<p>当者に依頼している。また、就職・進学を含めた高校卒業後の多様な進路保障ができるように、今後とも教育活動の充実をはかることを検討していく。</p>
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の推進	望ましい勤労観・職業観の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップへの参加を推奨し、体験を通して職業観を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年の生徒を対象にインターンシップへの参加を呼びかけ、進路指導部で受け入れ先を開拓する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・9名の生徒がインターンシップに参加しうち8名が保育士体験だった。保育士以外の職種への希望が少なかったことは課題だ。
			<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の就労状況を把握し、適切な支援・助言を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業実態調査（4月、11月）後、面談や職場訪問を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・担任や学年は、就業実態調査後、積極的に職場訪問や面談を行った。未就労の生徒に適切な支援・指導ができていないことは望ましい。
			<ul style="list-style-type: none"> ・社会への関心を高め、主体的に進路を考える力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会（年2回）やキャリアガイダンス（年2回以上）を実施する。 ・各学年の実情に応じ、1月に進路学習を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会を2回、キャリアガイダンスを1回実施した。1月には進路学習を行った。11月の進路希望調査では就職か進学か決められない生徒が40名おり、課題となっている。
進路目標の達成	個に応じた進路指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する生徒のニーズに応じて個別指導を実施する。 ・個別指導連絡会議を開き、担任と担当が集まり、生徒の状況を把握する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生7名、3年生1名が個別指導を申し込んだ。小論文を中心に継続して個別指導にあたった。夏休み前に連絡会議を開き最適な指導を実施できるように意見交換をした。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最終学年の生徒には、全職員の協力を得て面接指導等にあたる。 ・日頃から、挨拶や言葉遣い等に関する指導を行う 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・4学年団を中心に面接指導にあたり1人あたりの練習回数は昨年より多い。挨拶は良いが言葉遣いに関する指導には課題が残る。 	

				う。		
生徒指導	基本的生 活習慣の 確立	自主・自立 に沿った活 動の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生として自覚を促す。 ・ 自主的活動の推進（生徒会活動等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定時制生徒としての自覚を促し、仕事と勉強を両立する基本的な生活習慣を身に付けさせる。 ・ 生徒会を中心に自治活動を行い、生徒自身の企画・運営による学校行事を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんどの生徒が仕事と勉強を両立させている。アルバイト等をしていない生徒には個別面談を実施した。 ・ 様々な行事において、生徒会が中心になって企画・運営を行い、学校全体を活性化させている。
		けじめのあ る生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定時制生徒としての自覚を促し、仕事と勉強を両立する基本的な生活習慣を身に付けさせる。 ・ 生徒会を中心に自治活動を行い、生徒自身の企画・運営による学校行事を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校則遵守の徹底および社会で通用するマナーやエチケットを理解させ、身に付けさせる。 ・ 挨拶の励行、正しい言葉遣い、時間厳守、端正な整容等について、職員が模範を示し、きめ細やかで、丁寧な指導を繰り返す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の情報を職員間で共有することにより、適切な対応をとることができている。 ・ 課題として、授業の遅刻や中抜け等が時折あり、スマホを授業が始まっても見られる生徒が見られた。集会時のマナー指導も今後も続けていきたい。
	環境教育 の推進	環境保全意 識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコ活動の実施 ・ 安全・安心な学校環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミ分別の徹底（可燃物・プラスチック・ペットボトル・缶）、紙の節約（再生紙や裏紙の使用）、節電（使用しない教室の消灯）、節水を実施する。 ・ 清掃ボランティア活動の実施。（年3回） ・ 安全点検の実施（年3回以上） 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみ分別を細分化し環境美化への意識を向上させ、紙の節約、節電、節水等のエコ活動ができている。 ・ 生徒会を中心に、清掃ボランティア活動を年3回実施した。更なる参加生徒の拡充が課題である。 ・ 「安全・衛生点検」では故障箇所等の連絡について、事務担当者と連携して取り組むことができている。
	生徒会活 動の充実	自発的な生 徒会執行部 の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事に積極的な参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会やクラス企画を中心に湧定祭やスポーツフェスティバルを企画・実施する。 ・ 生徒会各種委員会の講演会等を含め運営に携わる場を設ける。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会が湧定祭やスポーツフェスティバル等の企画運営に自発的・積極的に取り組んだ。 ・ 講演会等で生徒が講師に対して謝辞を述べる場面を設定することができた。 ・ 定例会では、限られ

				<ul style="list-style-type: none"> ・ 定例会で議題を出し合い、学校活性化に向けて企画、実施する。 		<p>た時間の中で様々な意見を積極的に出し合い、行事に対してベストを尽くして取り組む姿勢ができています。</p>
保健安全	保健・安全教育の充実	保健指導 健康指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心身の健康の自己管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期健康診断の未検査者を減らすため、未検査に対する健康診断を学校医と日程調整する。 ・ 定期健康診断の結果、所見があった生徒に対して医療機関で詳しい検査や治療を勧める文書を発行し、病気の早期発見や早期治療に努める。 ・ 健康教育（性教育・薬物乱用防止・ストレスマネジメント教育）及び安全教育（救急蘇生法講習会）を実施し、生涯において健康で安全な生活を送るための予防教育に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未検査者に対する健康診断を別途実施し未受検者の割合を昨年度の11%から8%に減少させることができました。 ・ 定期健康診断の結果、所見があった生徒に対して医療機関で詳しい検査や治療を勧める文書を発行した。視力5名、耳鼻科1名、眼科2名、歯科2名の報告があった。未受診者に冬休み前に再発行して受診率の向上に努めたい。 ・ 全ての健康教育を計画とおり実施できた。特にストレスマネジメント教育は学年毎に保健部職員が実施し効果的であった。
	食育・給食教育の推進	食育指導 給食指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の給食を通して、食育を推進するとともにマナーの向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全で快適な給食環境づくり。 ・ 毎日の給食指導の中での食の重要性、安全性に関する指導の充実を図るとともに食堂の食育に関する掲示物を充実させる。 ・ 食育への意識向上を目的とした「食育だより」の発行及び食育講話を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全で快適な給食環境づくりを行った。 ・ 毎日の給食指導の中での食の重要性、安全性に関する指導の充実を図るとともに食堂の食育に関する掲示物を充実させることができました。 ・ 食育への意識向上を目的とした「食育だより」を毎月発行し、7月には食育講話を実施した。

特別支援教育	インクルーシブ教育に根ざした教育活動の推進	支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入生の実態把握のために学校生活状況調査と入学前面談を実施する。 ・ 月1回程度の委員会を開き情報の共有と連携を図る。 ・ 必要に応じて他機関との連携（SC、SSW、外部支援機関等）を図っていく。 ・ 職員研修を実施する。（年1回） ・ 支援の必要な生徒の個別支援計画の作成をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合格者説明会の時に新入生の面談について保健部の先生方と協力しながら入学前面談を行い情報共有する。（3月下旬） ・ 教頭先生をはじめ主任、指導主事の先生と月に1回程度の委員会を開き、情報の共有を図っていく。 ・ 今年は、NPO法人「トラスト」から定時制・通信制との合同研修を開く。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入生に関しては保健部の先生方と時間を区切りながら速やかに面談を行うことができた。今回はその情報を職員全体に報告する時間を取った。 ・ 生徒の状況について情報の共有はできたが、更に新しい情報も盛り込んでいく。 ・ 今回は通信制と合同で研修を行い、お互いに大変有意義な時間を作ることができた。
人権教育の推進	人権教育の推進	職員及び生徒の人権意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員研修及び人権学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年3回職員研修を実施し、職員の人権感覚を養う。 ・ 人権意識高揚のためのLHRや講演会などを実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員研修、及び人権講演会、人権学習LHRを計画通り実施することが出来た。
		進路保障	<ul style="list-style-type: none"> ・ 差別をなくす社会の形成者としての生き方を確立する取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「言わない・書かない・提出しない」取組の確認として、採用選考直前に卒業学年生徒に対し、人権教育主任等からの講話を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ LHRや面接練習を行った。生徒の一人は、実際に「お答えできません」と答えることが出来た。2件の違反事例について取り組んだ。
	命を大切にすることを育む指導	<p>全ての教育活動において、生徒及び教職員の自尊感情を高める取組を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教育を基盤に据えた授業や特別活動の実施 ・ 教職員の人権感覚を養い実践力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活体験作文の取組や人権教育LHR、授業などにおいて、生徒や教職員が自らのくらしを深く見つめ、親の願いや労働を知るとともに、思いを共有し、仲間づくりを促進する。 ・ 全職員に校外での研修への参加を促し、年間最低1回は参加する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活体験作文の取組は熱心に行うことが出来た。発表会において、多くの生徒が自分の思いを発表し、自らを語る実践となっていた。 ・ 職員研修への参加については、概ね参加できている。
いじめの防止等	いじめ防止の取組	未然防止・早期発見の相談体制と継続指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「いじめ防止対策推進法」に基づく教職員の組織（いじめ問題対策委員会）を中心に、いじめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ問題対策委員会が主導する職員会議、職員研修を通して、共有した情報のもと生徒に寄り添 		<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ問題対策委員会を中心に、いじめについての事案、解決方法、課題等を話し合い、職員間で共有できた。

			根絶に向けた取組を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・統一した指導に努める。 ・個々の事案について、正確で迅速な情報収集と事実把握と確認に努める。(調査:年3回)また、当該生徒の更生と相手生徒との関係改善を図る。 ・人権教育の推進と連携により、いじめを許さない態度の育成と、いじめを根絶する雰囲気づくりに努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回実施する心のアンケートを基に生徒の状況を把握して、いじめ防止につなげることができている。 ・日常的に「いじめは許さない」指導を徹底しており、目撃情報提供やお互いの声掛け等が生徒間でも時折見受けられ、未然防止に繋がっている。 ・連絡会や職員会議で生徒情報を共有し、情報交換と状況把握に努めて「気づき」を大切にしている。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	生徒、教職員の防災対応能力の向上	避難訓練の実施 防災マニュアルの見直し 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施と防災マニュアルの改訂 ・「ぼうさい通信」の発行 ・校内巡回指導、安全点検の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の特性や地域の実情に沿う避難訓練を実施する。 ・「ぼうさい通信」の活用による防災意識向上に努める。 ・防災対策の一環とした日頃の校内巡回指導と安全点検における施設内の確認を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆうあい中と連携した形で訓練を実施することができた。 ・全日・通信制の防災主任と協力しながら「ぼうさい通信」を毎月発行し、生徒・職員に配布した。 ・近隣学校の防災主任と協議を行い、災害発生時の生徒の引き渡し方法や各学校の防災に関する取組の情報共有を行った。

4 学校関係者評価

【いじめの防止等について】

〈委員〉 いじめ問題に対する学校の現状と対応を教えてください。

→ (回答) 学校

いじめ問題の把握のために「心のアンケート」を実施。生徒から訴えがあった事案については個別に確認を行い、組織的に対応している。定時制では昨年度1件、本年度1件を対応している。傾向としては、学校での事案というより、SNSを使った誹謗中傷の投稿などネット上(水面下)で起きている。学校ではSNSの適切な利用の仕方、人を傷つけるような投稿や拡散をしないように指導をしている。

【生徒指導について】

〈委員〉 クラブ活動に対する学校の現状と対応を教えてください。

→ (回答) 学校

定時制では太鼓部が地域のイベント(お祭り)やテレビにも取り上げられるなど活躍している。また、軟式野球部が県代表として全国定通体育大会にも出場するなど活動が活発である。また、バドミントン部も人数が増え、活性化が進んでいる。

【キャリア教育(進路指導)について】

〈委員〉 卒業後の進路の現状について教えてください。

→ (回答) 学校

定時制では大まかに6割が進学、4割が就職という進路状況である。定時制の生徒は約65%がアルバイト等をしている。生徒は自分でマネープランを考えるなど目的意識が高い。例えば将来の進学に係るお金(入学金・授業料)を考えて、何十万も貯金している生徒もいる。

先日、進学・就職内定した先輩生徒による合格体験発表会を行ったが、後輩生徒達も真剣に聞き入るなど進路に関する意識は高くなっている。

5 総合評価

定時制では、学校評価表の項目（大項目）では「①学校経営」「②学力向上」「③キャリア教育（進路指導）」「④生徒指導」「⑤保健安全」「⑥特別支援教育」「⑦人権教育の推進」「⑧いじめの防止等」「⑨地域連携（コミュニティスクール）」の**9項目**を設定した。

そのなかで、具体的目標・具体的方策を設定したのは**25項目**である。

【自己（校内）評価】

自己（校内）評価の内訳としては、以下（枠囲み）のとおりである。

【R7自己（校内）評価】

A：十分達成できている。＝ 9項目（約36%）

B：概ね達成できている。＝ 16項目（約64%）

上記のとおり、自己（校内）評価については「**概ね達成できている。**」状況にある。

職員一人一人が学校教育目標を踏まえた個人の目標設定ができるよう取り組みも進め、目標達成に向けた具体的な行動について意識の浸透も進んでいる。その結果、職員に自己評価アンケートを行い、教育目標等の具現化の達成状況について総合評価した結果、**約80%（概ねできている）**だった。

【学校運営協議会委員評価】

学校運営協議会委員評価としては、自己（校内）評価に対する異論はなく、同様に「**概ね達成できている。**」状況にあるとの評価である。

6 次年度への課題・改善方策

次年度への課題・改善方法を考える上では、令和7年12月5日（金）に生徒・保護者・職員に実施した「学校評価アンケート」を根拠としたい。

【学校評価アンケートの回答結果】

(1) 最終回答数（回答率）

①生徒：65人（59.1%） ②保護者：42人（38.2%） ③職員：32人（100%）

(2) 回答結果

①肯定的な回答（評価）が**高かった項目**

ア 生徒：93.8%→**「3. 規範意識の育成」に関する項目**

3. 学校（定時制）の先生は、あなたが社会に出ても困らないように、生活の規律（あいさつの大切さ・時間を守ることの大切さ・ルールも守ることの大切さ）をきちんと教えてくれている。

イ 保護者：100%→**「2. 進路指導」及び「4. 学校行事の充実」に関する項目**

2. 学校（定時制）の先生は、生徒が夢を実現（進学や就職）するために、とても役立つ話や大切なことをきちんと教えてくれている。

4. 学校（定時制）の学校行事（スポーツフェスティバル・湧定祭・生活体験発表会・映画鑑賞など）や部活動は、生徒にとって楽しいものであったり、生徒の成長につながるものになったりしている。

ウ 教職員：96.9%→**「2. 進路指導」に関する項目**

2. 学校（定時制）の進路指導は、生徒が夢を実現（進学や就職）するために、生徒への支援・情報の提供等、適切なものとなっている。

【（成果）分析】

保護者・教職員の評価が高いのは「進路指導に関する項目」である。進路指導については、生徒の評価においても、肯定的な回答割合が「87.7%」となっており、定時制の進路指導は全体的に高評価を得ることができている。

②肯定的な回答（評価）が低かった項目

ア 生徒：86.2%→「5.学校の安心・安全」に関する項目

5.学校（定時制）は、あなたにとって安心・安全であり、毎日が笑顔で過ごせるような居場所となっている。

イ 保護者：90.5%→「3.規範意識の育成」及び「6.保護者との連携」に関する項目

3.学校（定時制）の先生は、生徒が社会に出ても困らないように、生活の規律（あいさつの大切さ・時間を守ることの大切さ・ルールも守ることの大切さ）をきちんと教えてくれている。

6.学校（定時制）の先生（担任等）は、保護者に対して生徒や学校のことを伝えるなど適切な連携ができています。

ウ 教職員：68.8%→「9.チーム湧心館」に関する項目

9.学校（定時制）は、学校の教育目標達成に向けて「チーム湧心館」として取り組むことができている。

【（課題）分析】

生徒の評価で比較的に低かった項目は「5.学校の安心・安全」に関する項目だった。もともと中学校時に不登校経験者が多い定時制生徒の実態から、授業が分からなかったり行事等の集団活動に困難を抱えていたりしている生徒が在籍していることから、学校生活に不安感を抱えている生徒が一定数いることが要因として考えられる。今後は生徒の困難や不安感が少しでも解消できるように、生徒一人一人に応じた対応が求められている。

保護者の評価で比較的に低かった項目は「3.規範意識の育成」及び「6.保護者との連携」に関する項目に関する項目だった。これは家庭でも生徒が生活規律を守ることができていないため、規範意識の育成を学校にも期待していることが考えられる。保護者との連携も今後、より充実させることで学校・家庭で生徒の成長を図っていくことが求められている。

教職員の評価で比較的に低かった項目は「9.チーム湧心館」に関する項目だった。生徒や家庭の実態が複雑になっているなかで、その課題に対して教職員が個人で対応をしていることや、困ったときに協力を得られにくい、助けを求めにくい雰囲気があるのかもしれないことが考えられる。他にも生徒の「基本的な生活習慣に対する徹底した指導」や「不登校の生徒や障がい等の困難を抱えた生徒一人一人の教育的ニーズに応じた『最適な指導・支援や合理的配慮』」について評価が高くないことから、教職員が困難（専門性の不足等）を抱えていることが推察できる。今後、そのような困難への対応や働き方改革も求められる中、学校組織としてチームで協力していくことが求められている。

【改善方法】

学校が求める教師像のなかでも特に「生徒の指導・支援、保護者対応、その他業務の進め方などに関する悩みや気になることを同僚、学年主任や管理職に相談することができている。（チーム湧心館として取り組む教師像）」「自分の業務だけでなく、同僚が抱えている業務にも関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図りながら組織的に取り組むことができている。（組織の一員として自覚と責任を持つことができる教師像）」「自分の強みを伸ばしたり、弱みを改善したりするなど、今後のキャリアプランを意識して主体的に学ぶことができている。（生涯にわたって学び続ける教師像）」を意識した取組を研修の実施や思いやりのある言語環境の充実に努めていきたい。